

# 2021年度 事業計画書

## 1 人材育成事業

「知の交流拠点」機能を発揮し、産・学・官の研究交流を通じて、ライフサイエンスの発展を担う創造性豊かな研究人材の育成を図る。

### (1) 千里ライフサイエンスセミナー

我が国を代表する第一線の研究者（各回6名程度）が先端的研究成果・動向等を発表・紹介し、研究交流と人材育成を図る。

対 象 者 ; 大学・企業等の研究者等

回 数 ; 年6回（2020年度からの延期分を含む）

場 所 ; 千里ライフサイエンスセンタービル

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式はリアル開催、Web開催、その両方（ハイブリッド）の中から適切な方式を選択する。

回	テーマ名	コーディネーター	実施時期
①	<b>セミナー S0</b> 獲得免疫と自然免疫の双方から捉える新しいアレルギー学	・茂呂 和世（大阪大学・理研） ・椛島 健治（京都大学）	2021年 4月9日 (金)
②	<b>セミナー S1</b> 新しい医薬品概念が変える医療	・坂田 恒昭（塩野義製薬/大阪大学）	2021年 5月21日 (金)
③	<b>セミナー S2</b> 精神・神経疾患解明を目指した新しい脳機能研究	・和氣 弘明（神戸大学） ・林(高木) 朗子（理化学研究所）	2021年 7月13日 (火)
④	<b>セミナー S3</b> 第8回 がんシリーズ ライフステージとがん、細胞老化とがんの関連、治療標的としての可能性(仮題)	・原 英二（大阪大学） ・中西 真（東京大学）	2021年 9月16日 (木)
⑤	<b>セミナー S4</b> 新興(ウイルス)感染症、ウイルスとパンデミック(仮題)	・松浦 善治(大阪大学)	2021年 11月2日 (火)
⑥	<b>セミナー S5</b> 疾患発症の臓器間ネットワーク(仮題)	・片桐 秀樹(東北大学)	2022年 2月予定

## (2) 新適塾

各分野の第一線の研究者の講演と、若手が講師等と自由闊達に議論できる場を通じ、今後のライフサイエンスの発展を担う人材を育成する。

テーマ；「未来創薬への誘い」「脳はおもしろい」「難病への挑戦」

対象者；大学・企業等の若手研究者等

回数；各テーマ4回、年12回

場所；千里ライフサイエンスセンタービル

内容；講演及び懇親会

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式はリアル開催、Web開催、その両方（ハイブリッド）の中から適切な方式を選択する。

また、懇親会は新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催の可否を判断する。

	テーマ名	コーディネーター	実施時期
①	未来創薬への誘い	水口 裕之（大阪大学大学院薬学研究科） 小比賀 聡（大阪大学大学院薬学研究科）	3カ月に1回実施 計年間4回
②	脳はおもしろい	山本 亘彦（大阪大学大学院生命機能研究科） 古川 貴久（大阪大学蛋白質研究所）	同上
③	難病への挑戦	山下 俊英（大阪大学大学院医学系研究科） 菊池 章（大阪大学大学院医学系研究科）	同上

## (3) 大阪科学賞

創造的科学技术の振興を図り、21世紀の新たな発展と明日の人類社会に貢献するため、極めて有望な若手研究人材を「大阪科学賞」として顕彰する。（大阪科学賞は昭和58年創設。大阪府、大阪市、（一財）大阪科学技術センター主催。当財団は平成20年から共催）

## (4) 千里ライフサイエンス国際シンポジウム

世界的に著名な幾人かの専門家を招き、今回は体内時計と睡眠に関する講演会を筑波大学 IIIS（国際統合睡眠医科学研究機構）と共催し、産・学・官の研究者に本分野の進展を紹介する。なお、新型コロナウイルス感染症収束後にリアル開催することを目指し、本事業は2022年度へ延期する。

対象者；大学・企業等の研究者等

場所；千里ライフサイエンスセンタービル

テーマ名	コーディネーター	実施時期
体内時計と睡眠（仮題）	柳沢 正史（筑波大学 IIIS）	2022年度予定

## 2 岸本基金研究助成事業

独創性、先行性があり、ライフサイエンスの振興に寄与することが期待できる若手研究者の研究テーマに対して助成する。

- [助成研究テーマ]
- ・生命現象の解明
  - ・健康の維持増進と疾病の予防・治療
  - ・生物およびその諸機能の産業への応用

助成額；1件200万円

助成件数；15件程度

また、本事業10周年を記念し、これまでの成果を取りまとめた冊子を発行する。

「岸本基金研究助成10周年～受領者の業績と歩み～(仮題)」の発行

[内容] 10年間の受領者の業績ほか

## 3 普及啓発事業

一般市民や児童生徒に、学び、研究者等と交流する機会を提供するとともに、主にライフサイエンスに関する知識・情報や、当財団の役割、各種事業等について普及啓発を行う。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、リアル・Web・ハイブリッドの中から適切な開催方式を選択する。

### (1) 千里ライフサイエンスフォーラム

一般市民(産・学を含む)を対象に、ライフサイエンスを中心にその他多様な分野について、学習と交流の場を提供する。

- ・毎月1回(8月は休会予定)、年11回
- ・場所；千里ライフサイエンスセンタービル
- ・内容；講話及び懇談会

\*懇談会は新型コロナウイルスの感染状況を見ながら開催の可否を判断する。

### (2) 市民公開講座

一般市民を対象に、ライフサイエンスに関する身近なテーマについて公開講座を開催する。

対象者；一般市民

回数；年2回

① 第83回 テーマ・・・調整中 [2021年9月11日(土)または10月2日(土)]

② 第84回 テーマ・・・調整中 [2022年3月の土曜日]

場所；千里ライフサイエンスセンタービル

### (3) 小学生、高校生向け事業

次世代の人材育成も含めて、生命・自然科学に対する知的好奇心、向上心を醸成するため、小学生向け事業、高校生向け事業を実施する。

財団企画委員会担当委員が事業を企画し、コーディネーターとなって実施する。

【小学生向け事業】(学校の授業では取り組みにくい実験等を行う。)

- ・講 師 ; 2 課題 / 2 講師を予定
- ・場 所 ; 大阪大学豊中キャンパス 基礎工学研究科国際棟
- ・夏休み期間中 1 回開催予定

【高校生向け事業】

① 第 1 4 回ライフサイエンスセミナー : 研究者と語ろう (大阪大学 IReC と共催)

- ・開催日 ; 2021 年 7 月最終週の平日
- ・場 所 ; 大阪大学吹田キャンパス IReC 研究棟
- ・講 師 ; 3 演題 / 3 講師を予定

② 高校へのライフサイエンスの出前授業

- ・対象校 ; 大阪府立茨木高等学校、高槻中学校・高等学校、金蘭千里高等学校を予定
- ・回 数 ; 計 5 回

(4) 広報誌「千里ライフサイエンス振興財団ニュース」の発行

ライフサイエンスに関する知識・情報、当財団の事業・活動報告、案内等の普及を図る。

[内容] ・理事長と第一線研究者の対談

- ・「リレートーク」
- ・「解体新書」
- ・財団事業の報告・取材記事
- ・財団事業案内等 情報提供

発行回数 ; 年 3 回

部 数 ; 各 2, 0 0 0 部

配 布 先 ; 大学・研究機関、ライフサイエンス関連企業、行政、セミナー・フォーラム等財団主催行事参加者等

## 4 研究実用化支援事業

産・学・官の交流拠点・結節機関として、ライフサイエンス分野における研究とその実用化・事業化を促進・支援する。

(1) 技術講習会

ライフサイエンス分野の最新の実験技術、機器・装置等を研究者の講演と実習を通じて紹介し、若手研究者等に新しい技術習得の機会を提供する。

対 象 者 ; 大学・企業等の研究者等

回 数 ; 2 回 (2020 年度からの延期分を含む)

場 所 ; 大阪大学(G69)、医薬基盤・健康・栄養研究所(G70)

テーマ名	コーディネーター	実施時期
<b>技術講習会 G69</b> 遺伝子導入技術に関する技術講習（仮題）	水口 裕之（大阪大学）	調整中
<b>技術講習会 G70</b> 抗体のエピトープ解析	鎌田 春彦（医薬基盤・健康・栄養研究所）	調整中

(2) 日本医療研究開発機構「橋渡し研究戦略的推進プログラム」（大阪大学受託事業）

当該プログラムのシーズA（基礎研究課題）および異分野融合型シーズ（医歯薬系以外の研究者による研究課題）に係る業務を担当し、特に革新的医療技術創出拠点としての大阪大学の課題となっている大阪大学以外（拠点外）のシーズ育成強化を実現する。

- 具体的には、①研究者を訪問し進捗状況や今後の計画をヒアリングして必要な助言を行うフォローアップ業務、  
②企業への繋ぎ活動、  
③大阪大学への結果報告と対応協議、  
④新規支援シーズの選考業務等 を行う。

(3) ライフサイエンス産学官連携交流事業(大阪府との連携事業)

① 創薬・基盤技術ビジネスフォーラムの開催

創薬・基盤技術の有望なシーズを持つアカデミア研究者に研究成果発表の場を提供し、研究テーマに関心のあるベンチャーキャピタル・製薬企業等との意見交換・交流による研究成果の事業化促進をめざす。

② ライフサイエンスビジネス・ピッチ及びネットワーキングの開催

大阪・関西のライフサイエンス関連会社と中小・ベンチャー企業等とのアライアンスを目的としたマッチングイベント(ビジネス・ピッチ)を実施するとともに参加者によるネットワーキングイベントを開催し、産学官の連携・交流を促進する。